

6. けいれん

◆こんな時は、迷わず救急車を呼んでください

緊急度1

1. けいれんが10分以上続いている
2. けいれんが止まっても意識が変
3. 呼吸が弱い。チアノーゼ(唇の色が紫色)が続く
4. 激しい頭痛を訴える
5. 生後6か月未満の乳児
6. 嘔吐、失禁を伴う
7. 何度も繰り返しけいれんが起こる



1) 次のような症状が一つでもあれば

緊急度2

早めに休日夜間急病センターを受診するか電話相談を利用!

1. けいれんは止まって、今は落ち着いている
2. はじめてのけいれん
3. 6歳以上の小児
4. けいれん時の体温が38℃以下だった(無熱けいれん)
5. けいれんに左右差がある
6. けいれんかどうか分からない
今は落ち着いている



2) 左記症状がなく次の症状であれば

緊急度3

とりえず自宅で様子を見て、かかりつけ医の診療開始時間まで待つ

1. すでに診断がついており、今までに何度か起こったことがあるけいれん発作

◆あわてないで落ち着いて、けいれんの様子を観察して対処してください

観察のポイント

1. いつから、どんなけいれんが、何分くらい続いたか
2. 右半身、あるいは左半身だけのようないけいれんで、左右差はないか
3. 体温を計ってください

対処方法

- 揺さぶったり、たたいたりしない
- 吐くことがあるので誤嚥しないように、顔を横に向け、衣服をゆるめる
- 口の中に割り箸や指を入れない(嘔吐による窒息防止)

一口メモ

泣き入りひきつけ

- 子どもが泣き入り、息を吸い込んだまま息を止める。唇は紫色を呈し、身体が硬直、一瞬気を失う。
- まずは落ち着かせる。体を揺すったり、騒ぎ立てたりしない。普通は、まもなく呼吸を始めます。